

一般提供開始以降、受信端末を通じた緊急地震速報の提供で想定外の事象が発生した事例（その1）

事例番号	年月日	発生した事象	原因	ガイドラインで対応する項目
事例 1		日々の電話等による気象庁への相談事項として、どのメーカーが良いのか、各メーカーの受信端末の比較ができない、購入にあたって緊急地震速報の動作が分からないので仕様書が書けない、等の相談が寄せられる。	緊急地震速報を導入の際に必要な事項を簡単に閲覧できるものがなかった。	本ガイドラインの必須項目を全て満たした場合にはその旨を公開すること
事例 2		これまでに行ってきたアンケートでは、即座に緊急地震速報であるということが理解できず、適切な行動がとられていない例が見受けられた。	緊急地震速報であることが即座に分かる報知音が、統一されていない。また、放送文言も、端末や施設等によって様々であるため。	具体的な放送の文言は、NHKチャイム音 2 回の後に、「地震です。落ち着いて身を守ってください。（2 回繰り返す）」を使用 報知音の選択
事例 3		これまでに行ってきたアンケートでは、緊急地震速報を見聞きした際に、どのように行動したらいいか分からなかったという例が見受けられた。	緊急地震速報の適切な利用には訓練が欠かせないが、端末利用者においても、端末を使って訓練することができていない。	訓練支援機能を有すること
事例 4	2008年 4月4日	複数回発表される緊急地震速報のうち、後半のもので震度が大きめに予測され、館内放送の閾値を超えたために、集客施設で放送された。実際に発生した揺れは、施設内では感じない程度であり、また揺れが収まってから放送されたので、これから強い揺れが来ると身構える人が多くいた。	震源等の推定や震度予測の誤差により、館内放送の基準に遅れて達した。	館内放送した後、集客施設の周辺で実際に観測された揺れについて館内放送等で知らせること
事例 5	2008年 5月12日	配信事業者（システム納入事業者）が行った試験用データの配信を起因として全列車が停止した。	配信事業者（システム納入業者）がユーザー側の端末の設定（試験データを使用する）を「OFF」とすべきところを「ON」に設定してしまったため、試験用データが配信された際に受信端末が動作してしまった。	テスト報を受信した際の動作

一般提供開始以降、受信端末を通じた緊急地震速報の提供で想定外の事象が発生した事例（その2）

事例番号	年月日	発生した事象	原因	ガイドラインで対応する項目
事例 6	2008年 7月14日	複数の許可事業者が作成した端末において、気象庁が誤って発表した100ガル越え電文を用いて不適切な処理を行ったことにより過大な予測震度の情報を発表するという不具合が発生した。	100ガル越えの緊急地震速報では、マグニチュードを「不明：//」として発表することについては事業者に示しているところであるが、それを過大なマグニチュードに変換し、不適切な震度予測等を行った。また、別の許可事業者では、キャンセル報とみなし、取り消しである旨、報知した。	
事例 7	2008年 9月7日	雷に影響により発表した100ガル越えの緊急地震速報を利用して、鉄道事業者が列車を止める事例が発生	100ガル越えの緊急地震速報には雷による誤報がありうることは従前から説明してきているところであるが、鉄道事業者には、誤報について理解した上で安全サイドにたって、利用しているところもある	100ガル超え緊急地震速報に対する動作
事例 8	2009年 3月31日	配信事業者の事業撤退により受信端末が使用できなくなった	配信事業者の撤退。	サーバー端末間の通信手順やデータフォーマットを公開すること
事例 9	2009年 8月5日	ほぼ同じ時間帯に沖縄と栃木で地震が発生し、各々に応じた緊急地震速報が発表された際に、端末によっては、後続報が発表されるたびに、地図など表示が栃木の地震のものになったり沖縄の地震のものになったり頻繁に変わった。	端末が複数の地震が同時刻に発生した際の報知方法を整理していなかったために発生した。	ある地震の緊急地震速報を受信した後、続けて別の地震の緊急地震速報を受信した場合の動作
事例 10	2009年 8月9日	東海道南方沖で発生した震源の深い地震(震源の深さ333km、M6.8)により、宮城県から東京都までの太平洋側の広い範囲で震度4を観測した。福島県や宮城県等の利用者からは端末が報知せず揺れに見舞われた、一方、東海や近畿の利用者からは端末が報知したのに揺れない等、問い合わせが事業者等に寄せられた。	震源の深い地震の場合は、予測精度が十分でないことから、報知する場合は、利用者に予測精度が低いことを理解させるよう許可事業者に対して求めていたが、精度が低いことが理解されていないとともに、発生した地震が深発地震で予測精度が低い予測であることが即時には利用者に分からない報知となっていた。	深発地震についての緊急地震速報に対する動作

一般提供開始以降、受信端末を通じた緊急地震速報の提供で想定外の事象が発生した事例（その3）

事例番号	年月日	発生した事象	原因	ガイドラインで対応する項目
事例 11	2009年 8月25日	気象庁が、規模の小さな地震が発生した際、機器の異常により過大なマグニチュードの緊急地震速報を発表したが、それが異常であることの連絡ができなかった。	事業者から、緊急地震速報利用者に対して直接連絡手段がなかった。	利用者に連絡する手段があること
事例 12	2009年 9月15日	集客施設において、緊急地震速報の館内放送がないまま、キャンセル報が放送された。	緊急地震速報を受信し震度予測を行った場合、その予測結果が報知基準に達せずとも、キャンセル報受信時は、それを放送する仕様となっていた。	キャンセル報を受信した際の動作
事例 13	2009年 12月1日	全国7つの地震が短期間で発生する想定 of 訓練報に対し、猶予時間が短く揺れの強い地震の報知を上書きし、猶予時間が長く揺れの弱い地震の報知が残った。	複数地震が同時に発生したときの報知方法が、一番危険度の高い内容ではなく、単純に最後の地震による報知を行う仕組みであった。	ある地震の緊急地震速報を受信した後、続けて別の地震の緊急地震速報を受信した場合の動作
事例 14	2009年 12月1日	事業者が訓練報を配信しないことを事前に知らされていなかった利用者から、当日訓練報が配信されなかったことに対する問い合わせが(混乱)多数あった。	利用者への直接の連絡手段を用意していなかった。	利用者に連絡する手段があること
事例 15	2009年 12月1日	訓練したい利用者に訓練報の配信がなされない例があった。	事業者が、利用者毎に訓練報を配信する能力がない、利用者へ訓練報配信の同意を得ることができない等の理由から、訓練報の配信を全て止めた。	端末毎に個別配信可能なこと
事例 16	2009年 12月1日	訓練報により列車が自動制御されて止まった。	端末販売と配信が別の事業者で、いずれも利用者の連絡先を知り得ず、連絡手段が一切なかった。	利用者に連絡する手段があること
事例 17	2009年 12月1日	訓練報により列車が自動制御されて止まった。	端末を販売する事業者も、配信する事業者も、利用者の利用目的を把握していなかった。	利用者の利用方法を把握していること

一般提供開始以降、受信端末を通じた緊急地震速報の提供で想定外の事象が発生した事例（その4）

事例番号	年月日	発生した事象	原因	ガイドラインで対応する項目
事例 18	2009年 12月1日	訓練報により列車が自動制御されて止まった。	列車制御に使用するためにはどのような機能が必要なか明示されたものがなかったため、機能が低い端末を使用していた。	本ガイドラインの必須項目を全て満たした場合にはその旨を公開すること
事例 19	2009年 12月1日	訓練報により列車が自動制御されて止まった。	当該端末の外部出力が訓練報でも本物の緊急地震速報と同じ動作をする仕様であった。	訓練報を受信した際の動作
事例 20	2009年 12月1日	訓練報により列車が自動制御されて止まった。	当該配信事業者は、訓練報の配信を止めたり、端末ごとに配信する機能を持っていなかった。	端末毎に個別配信可能なこと
事例 21	2009年 12月1日	訓練報による訓練にあわせて、構内放送設備の動作確認も行ったが、放送ができなかった。	放送設備向けの配線に不具合があったため。	訓練報を受信した際の動作 テスト報を受信した際の動作
事例 22	2010年 2月18日	ウラジオストック付近で発生した震源の深い地震(震源の深さ590km、M6.9)により、日本海側、東海地方、西日本等で震度3や4の報知をしたものの、実際には人に感じるような揺れがなく、事業者や気象庁に誤報ではないかとの問い合わせが多数あった。	震源の深い地震の場合は、予測精度が十分でないことから、報知する場合は、利用者に予測精度が低いことを理解させるよう許可事業者に対して求めていたが、精度が低いことが理解されていないとともに、発生した地震が深発地震で予測精度が低い予測であることが即時には利用者に分からない報知となっていた。	深発地震についての緊急地震速報に対する動作
事例 23	2010年 3月27日	電源装置障害により発表した100ガル越え電文を利用して、鉄道事業者が列車を止める事例が発生。	100ガル越えの緊急地震速報には機器障害による誤報がありうることは従前から説明してきているところであるが、鉄道事業者には、安全サイドにたって、利用しているところもある。	100ガル超え緊急地震速報に対する動作